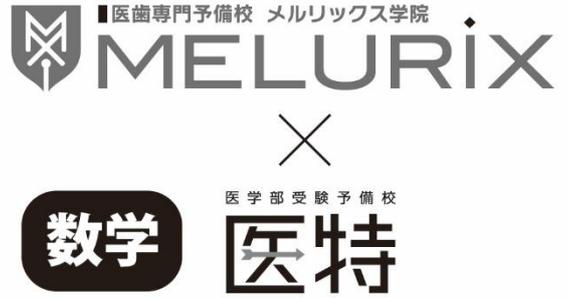


解 答 速 報

大阪医科薬科大学 一般選抜前期



□

(1)

$$\begin{aligned} \text{(与式)} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \frac{k}{n} \cos \frac{\pi}{2} \left(\frac{k}{n} \right)^2 = \int_0^1 x \cos \frac{\pi}{2} x^2 dx \\ & \frac{\pi x^2}{2} = t \text{とおくと, } \pi x dx = dt \quad \begin{array}{l} x \mid 0 \rightarrow 1 \\ t \mid 0 \rightarrow \frac{\pi}{2} \end{array} \end{aligned}$$

よって,

$$\text{(与式)} = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1}{\pi} \cos t dt = \left[\frac{1}{\pi} \sin t \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{1}{\pi}$$

(2)

$$\text{(与式)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^{p-2}} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n 2 \frac{k}{n} \sin 2\pi \frac{k}{n}$$

$p=2$ のとき,

$$\begin{aligned} \text{(与式)} &= \int_0^1 2x \sin 2\pi x dx = \left[-\frac{x}{\pi} \cos 2\pi x \right]_0^1 + \int_0^1 \frac{1}{\pi} \cos 2\pi x dx \\ &= -\frac{1}{\pi} + \left[\frac{1}{2\pi^2} \sin 2\pi x \right]_0^1 = -\frac{1}{\pi} \end{aligned}$$

$p \geq 3$ のとき,

$$\text{(与式)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^{p-2}} \left(-\frac{1}{\pi} \right) = 0$$

2

(1)

C, D は l 上にあるので、 $C:(-6k, 2k, 5k), D:(-6m, 2m, 5m)$ とおける。

$\overrightarrow{AC} \perp \vec{m}$ より

$$(-6k+10, 2k, 5k-14) \cdot (-6, 2, 5) = 65k - 130 = 0 \text{ より } k=2$$

よって、 $C:(-12, 4, 10)$

$\overrightarrow{AD} \perp \vec{m}$ より

$$(-6m-8, 2m+1, 5m+3) \cdot (-6, 2, 5) = 65m + 65 = 0 \text{ より } m=-1$$

よって、 $D:(6, -2, -5)$

$$|\overrightarrow{AC}| = \sqrt{(-2)^2 + 4^2 + (-4)^2} = 6$$

$$|\overrightarrow{BD}| = \sqrt{(-2)^2 + (-1)^2 + (-2)^2} = 3$$

(2)

O, C, D は同一直線上にあるので、 O, A, C, D は同一平面上にある。

B がこの平面にあると仮定すると、

$$\overrightarrow{OB} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OC} = (-10s - 12t, 4t, 14s + 10t)$$

となるので、 $-10s - 12t = 8$ かつ $4t = 4$ かつ $14s + 10t = 10$

これを同時に満たす s, t は存在しないので矛盾。

よって、 A, B, C, D は同一平面上に存在しない。

(3)

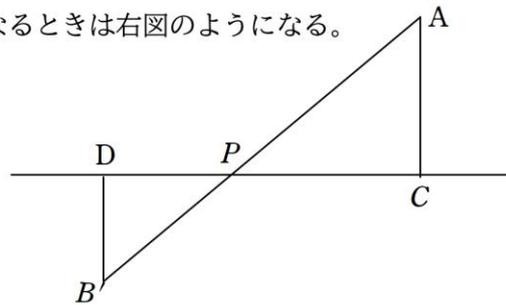
l の周りに B を回転させて平面 ACD 上かつ l に対して A とは反対側に移動させた点を B' とする。すると $AP + BP = AP + B'P$ が最小になるときは右図のようになる。

$\triangle ACP \sim \triangle B'DP$ となり、相似比は2:1

つまり、 P は CD を2:1に内分した点。

$$\overrightarrow{OP} = \frac{\overrightarrow{OC} + 2\overrightarrow{OD}}{3} = (0, 0, 0)$$

$$|\overrightarrow{AP}| + |\overrightarrow{BP}| = 3\sqrt{74}$$



3

$y = x^2 - x + 2$ と $y = 2x$ の交点の x 座標は

$$x^2 - x + 2 = 2x \quad \text{つまり} \quad x^2 - 3x + 2 = (x-1)(x-2) = 0 \quad x = 1, 2$$

よって、 $1 \leq t \leq 2$

$P(t, t^2 - t + 2)$ と $L: 2x - y = 0$ の距離 r は

$$r = \frac{|2t - t^2 + t - 2|}{\sqrt{2^2 + (-1)^2}} = \frac{|-t^2 + 3t - 2|}{\sqrt{5}} = \frac{-t^2 + 3t - 2}{\sqrt{5}} \quad (\because 1 \leq t \leq 2)$$

PH は $(t, t^2 - t + 2)$ を通る傾き $-\frac{1}{2}$ の線分であるので、

$$y = -\frac{1}{2}(x - t) + t^2 - t + 2 = -\frac{1}{2}x + t^2 - \frac{1}{2}t + 2$$

$$H \text{ は } y = 2x \text{ と } y = -\frac{1}{2}x + t^2 - \frac{1}{2}t + 2 \text{ の交点より, } x = \frac{2t^2 - t + 4}{5}$$

OH の x 座標の差は $\frac{2t^2 - t + 4}{5}$ であり、直線の傾きと斜辺の長さの関係より

$\sqrt{5}$ 倍である

$$\text{よって, } h = \frac{2t^2 - t + 4}{\sqrt{5}}$$

(2) $C: y = x^2 - x + 2$ と $L: y = 2x$ の交点を O から近い順に H_1, H_2 とおく。

$$OH_1 = \sqrt{5}, \quad OH_2 = 2\sqrt{5}$$

したがって、求める体積 V は

$$V = \int_{\sqrt{5}}^{2\sqrt{5}} \pi r^2 dh \text{ と表現できる。}$$

$$\begin{aligned} (1) \text{より } r &= \frac{-t^2 + 3t - 2}{\sqrt{5}}, \quad h = \frac{2t^2 - t + 4}{\sqrt{5}} & dh &= \frac{4t - 1}{\sqrt{5}} dt & \frac{h}{t} & \left| \begin{array}{l} \sqrt{5} \rightarrow 2\sqrt{5} \\ 1 \rightarrow 2 \end{array} \right. \\ V &= \frac{\pi}{5\sqrt{5}} \int_1^2 (t-1)^2 (t-2)^2 (4t-1) dt & t-1 &= s \text{ とおけば } dt = ds & \frac{t}{s} & \left| \begin{array}{l} 1 \rightarrow 2 \\ 0 \rightarrow 1 \end{array} \right. \\ &= \frac{\pi}{5\sqrt{5}} \int_0^1 s^2 (s-1)^2 (4s+3) ds \\ &= \frac{\pi}{5\sqrt{5}} \int_0^1 4s^5 - 5s^4 - 2s^3 + 3s^2 ds \\ &= \frac{\pi}{5\sqrt{5}} \left[\frac{2}{3}s^6 - s^5 - \frac{1}{2}s^4 + s^3 \right]_0^1 \\ &= \frac{\pi}{5\sqrt{5}} \cdot \frac{1}{6} = \frac{\sqrt{5}}{150} \pi \end{aligned}$$

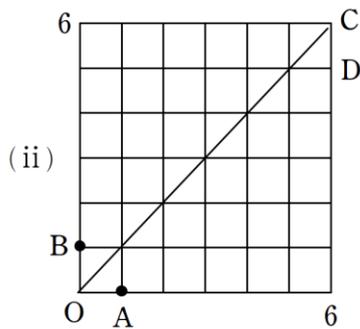
4

(1)

$$\begin{aligned} {}_{2n}C_n - {}_{2n}C_{n-1} &= \frac{(2n)!}{n! \cdot n!} - \frac{(2n)!}{(n-1)!(n+1)!} \\ &= \frac{(2n)!}{n!(n+1)!} (n+1-n) \\ &= \frac{1}{n+1} \frac{(2n)!}{n! \cdot n!} = \frac{{}_{2n}C_n}{n+1} \end{aligned}$$

(2)

(i) 表6回裏6回出る確率は ${}_{12}C_6 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{12} = \frac{231}{1024}$



題意の場合の数は、 $A \rightarrow D$ への最短ルートの道順からOCと共有点を持つ道順を除いたものである。

$A \rightarrow D$ の道順の中でOCと共有点を持つ道順はOCについて対称移動すると $B \rightarrow D$ の道順と同じである。

よって、 ${}_{10}C_5 - {}_{10}C_4 = \frac{{}_{10}C_5}{6} = 42$ 通り (\because (1))

よって、全ての場合の数は同様に確からしいので、求める条件付確率は $\frac{42}{{}_{12}C_6} = \frac{1}{22}$

～講評～

1 積分の計算

一見して区分求積法をテーマとしていることがわかる内容。計算問題としても基本的なものとなっていた。

2 空間のベクトル

座標空間における折れ線の長さの最小値を求める問題。計算より図形的な考察に重点を置いた内容。

3 回転体の体積

傾きをもつ直線を軸とした回転体の体積を求める問題。多くの受験生にとっては斜方回転として、テキストでもなじみがあるだろう。誘導が丁寧につけられていて、計算部分も平易なものとなっている。

4 確率

硬貨投げによって得点を決めるランダムウォークの問題。題意は理解しやすく、典型問題であるので完答できた受験生も多いだろう。

癖の強い医学部の問題というより模擬試験のような出題で、例年と比べて内容・計算とも易化している。上位校だけに、一次合格には最低でも7割は確保したい。



メルマガ登録（無料）またはLINE公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！
メルマガ登録は左のQRコードから、LINE友達登録は右のQRコードから行えます。



<p>渋谷校</p> <p>☎ 0120-142-760 東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p>名古屋校</p> <p>☎ 0120-148-959 名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p>大阪校</p> <p>☎ 0120-142-767 大阪府吹田市広芝町 4-3-4 江坂第1ビル 3F</p>
<p>個別専門館 麹町校</p> <p>TEL : 050-1809-4751 東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p>京都校</p> <p>TEL : 075-746-4985 京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p>医学部特訓塾</p> <p>TEL : 03-6279-9927 東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>